

《令和5年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第2回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和5年11月28日（火）

時 間：15:00～17:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和5年度 第2回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化及び知識向上

参加者：44名

居宅介護支援事業所・お世話センターの各職員、サービス事業所連絡会の各
部会長、阿南市内の病院、阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググルー
プ会議委員、阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援セン
ター職員

挨 拶：阿南市保健福祉部 福祉事務所 地域共生推進課 課長補佐 佐坂 甲
阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 氏



【講義1：福祉施設・事業所種別・役割について】

講師：社会福祉法人健祥会

特別養護老人ホーム 健祥会バイエルン 施設長 井出 主樹 氏



福祉施設・事業所種別・役割について講義を頂
いた。まずは介護保険制度の基本知識、介護保険
利用までの流れ、料金について説明があり、特に
減額制度については低所得者対応を述べられた。
次に福祉施設・事業所を①施設サービス②居宅サ
ービス③地域密着型サービスに分類し、阿南市の

事業種別も例に挙げて対象者・目的等を役割を説明。特に特別養護老人ホームと老人保健施設のの違いとして、特別養護老人ホームは日常生活全般の介護で看取りにも対応、老人保健施設は在宅復帰へのリハビリがそれぞれの目的。

在宅サービスでは、訪問・通所・小規模多機能型居宅介護を阿南市の現状に置き換え、地域密着型サービスの内容を含めて説明。

医療と介護のスムーズな連携に向けては、各業界の機能分化を相互理解して地域包括ケアシステムの構築することが重要。

令和6年度は、医療・介護・障害福祉のトリプル改定で全ての改定がリンクしあいながら、協議が着々と進められている。社会保障制度の考え方は、どんどん変化して、新しい介護保険サービスの創設も議論されている。他業界の全体的な動きにも、目を向けていくことが重要。

最後に、医療・介護を必要とする方々が、住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしい暮らしを送ることができる街づくりを目指すことの観点も説明いただいた。



【講義2：グループワーク】



グループワークでは、講義1で学んだことを踏まえ医療従事者と介護従事者等が7班に分かれ、自己紹介を行い、各介護・福祉事業所の内容を理解したことで、どのように連携が強化できるかを話し合った。医療従事者より介護従事者へ積極的な疑問や提案があり熱気に満ち溢れたグループワークであった。

意見発表では、お互いが共通理解できたことで今後の連携がスムーズに行える。阿南市は他市町村と比べて医療と介護の連携は進んでいるという意見もあった。また、認知症高齢者の対応、独居高齢者・身元引受人がいない高齢者の対応が今後の課題でもあるとの意見があった。



【総評】

介護保険制度の講義を受けたことで介護・福祉事業所の役割が理解でき、医療と介護の連携強化に繋がる良い講義であった。

また、グループワークではコロナ禍でなかなか会うことができず、名前は知っているが顔が分からない医療や介護に携わる方々が直接会ってコミュニケーションを図ることで信頼関係の構築にも繋がった。

地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、今後も医療・介護従事者の課題把握に努め、専門性を高めるケアカフェを開催し、連携強化に繋げていきたい。

【研修会風景】



※研修動画は[阿南市在宅医療・介護連携支援センターYouTube](#)でご覧いただけます。

報告者:センター長 湯浅